

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

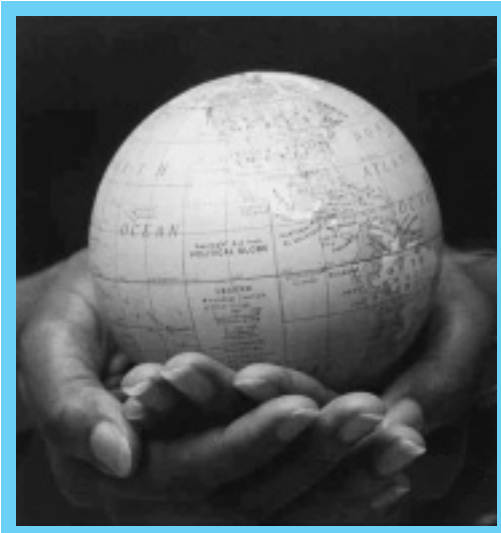
第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 7・8

JUL/AUG. 2007

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp



非「核」の未来を目指して

日本YWCAが掲げる「ビジョン2015」のひとつは「非核・非暴力による平和を構築する」です。今月号では非核について特集します。



日本の状況に限っても、私たちの生活は日本の原子力・核燃料サイクル政策から生み出される放射能汚染の危険に脅かされている。青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場(使用済み核燃料カプセルニウムとウランを抽出して「再利用」しようとするための工場)が今年11月には本格稼働する予定だが、それは大量の核のゴミ、19で18億人分の致死量に相当するという超猛毒物質のプルトニウムを年間に800kg分も生み出すことになる。また原発1基が1年間に出す放射能を1日で環境に放出すると言われている。人体への影響、農産物・畜産物の汚染や日本有数の漁業地三陸の海産物への影響が懸念されている。子どもたちへの「食育・食の安全」を言うなら考えないといけないはずのことだが、日本国内、特に関連の強い首都圏でこの問題に関心をもっている人はまだ多くないようだ。

だが一方で、現実の世界は核廃絶の途上にあるとはいえない。核技術の世界的拡散、米国の核軍力の強化、イラク戦争やアフガニスタン攻撃で投下された何百万トンと言われる劣化ウラン弾の影響も、先の湾岸戦争の影響の数倍の半減期は45万年という途方もない規模の放射能の汚染の規模が懸念されている。湾岸戦争後、癌や白血病、子どもの先天的障がい等従来では考えられない規模の数がすでに報告されており、数年後にはさらに大きな問題となつて現れるようになるだろう。

私たちはここで想像力をちよつと働かせてみる必要がある。劣化ウランは何かから作られているのか? それは核兵器のみならず、原子力発電・核燃料サイクルの製造過程でも生じるもので、言わば核のゴミの一つである。放射能の影響の半減期は45万年という途方もない規模の放射能の汚染の規模が懸念されている。湾岸戦争後、癌や白血病、子どもの先天的障がい等従来では考えられない規模の数がすでに報告されており、数年後にはさらに大きな問題となつて現れるようになるだろう。

特集



釜山YWCA合唱団 来日

—演奏と交流会—



5月24日 昨年大阪YWCAと姉妹Y提携を結んだ、韓国・釜山YWCAの合唱団の一行28人が来阪されました。

釜山YWCAの合唱団の一行28人が来阪されました。昨年大阪YWCAと姉妹Y提携を結んだ、韓国・釜山YWCAの合唱団の一行28人が来阪されました。

本の紹介

気候変動+2℃

編集・文: Think the Earthプロジェクト
発行: ダイヤモンド社
定価: 1200円+税

地球温暖化に最初の警鐘が鳴らされた1950年を基点としたシミュレーションは、2100年には地表気温は5℃上昇すると予測している。ページをばらばらとめると、世界地図の色が変化していく様子が見える。2℃の上昇は破滅か修復かの分岐点で、このシミュレーションによれば20年後である。人口増加に伴う生産と消費の増大の結果、生活の足元である地球環境を破壊してしまった経過の解説は、「ヒストリー」「インパクト」「影響」「専門家の」「コラム」に分けて理解しやすい。さまざまな「未来を変える取り組み」を参考に、私たちの「意志」で未来を切り拓いていくことが提案されている。

「アメリカでは、春がきてくると自然は黙ってこっそりいる。」▼レイチェル・カーソンが、その著書『沈黙の春』で警告をならしたの1962年。今年には彼女の生誕100年でもある▼彼女の不安は現実となってひたひたと地球を覆う▼今私たちのなすべきことは? ▼今月号は7・8月合併号です。(RM)

AROUND THE GLOBE

今、地球上で



世界総会開催 目前

—主な協議内容と日本からのアピール—

7月初めにケニアのナイロビで、YWCA世界総会が始まる。主題は「生活を変革し、コミュニティを変革する」。日程は、若者のためのトレーニング、次いで「会則改正」のための臨時総会、そしてHIV/AIDSに対する女性のリーダーシップに関する1500人規模の「国際女性サミット」(IWS)、次の4年間の活動方針や予算・優先課題を決議し役員選挙などを行う会員総会へと続く。アフリカとケニアの自然や文化に触れる日もあり、楽しみだ。

●会則改正— 2003年の世界総会決議に基づき作業部会ができ、各加盟YWCAとのやり取りや地域ごとの会議などを経て、昨年5月に最終案が完成した。採決は、前文・基盤とそれ以外の条文に分けて、賛成か反対かだけを問う。

●主な改正点— 「前文」がずっと分かりやすくなる。全能なる神、イエス・キリストと聖霊への信仰を基盤とすること、女性のリーダーシップによって、正義・平和・健康・人間の尊厳・自由・環境への配慮が実現され維持される「完全に開かれた世界」、即ちすべての人が人種や国家・階級や宗教などあらゆる区別なく等しい価値をもつ世界を目指すこと、この目的のために、ボランティア精神・会員運動・多様性・寛容・相互尊重・誠実さ・説明責任を守り提唱すること、また、目的の推進には、忠誠心をもつリーダーたちの貢献が不可欠であり、それが世界YWCAの結束と連帯の源泉であることを確認している。「基盤」は「世界YWCAは、キリスト教信仰を基盤とする」と簡潔に記され、「キリスト教信仰」の中身の多様な解釈を可能にしている。

他の条文で重要なのは加盟条件。「世界YWCAの目的を受け入れた女性たちが運営し、その(運営メンバー)最低25%は30歳以下であること」や「世界YWCAが承認した『適切な組織運営と説明責任の基準』を実質的に遵守していること」などが加わる。また世界総会での全加盟YWCAの投票権数や常任委員の各地域への割当人数が平等になることも特記すべきことである。

●次の4年間の活動方針案=「行動計画の枠組み」— (1)女性と少女のリーダーシップの養成、(2)あらゆる面での女性の人権の向上、(3)加盟YWCAが組織として最高の説明責任を果たすこと、を目指す「行動計画の枠組み」が協議される。そのどれもが、私たち日本YWCAが取り組もうとしている課題と共通していることは喜ばしい。

●日本YWCAがアピールすること—核廃絶をめざす平和教育のワークショップを行う。核実験や劣化ウラン弾・原発事故などによる被害の実情を学び、解決策を探る。さらに憲法第9条のアピールなど「平和」について展示をし、環境問題解決にも資する日本の伝統文化の粋、風呂敷のデモンストレーションも行う。また、常任委員に立候補した雀部真理さんを、日本から参加する21人全員で応援する。

日本YWCA会長 石井摩耶子

インフォメーション

▼世界YWCA機関紙「コンソーサーン」132号日本語版発行 1部200円(送料込み300円) お問合せは日本YWCAまで

【協力ありがとうございます】
賛助費(以下敬称略)
板橋啓子 内海公子 永井千代子
野田孝子 鈴木信子 上村倉子
岩田優子 江副史子 小野小夜子
辻加代 武井多佳子 大城美代子
金剛慧子 永山峰子 宮田喜久代
難波郁江 山田美穂子 長尾真理子
オリーブの木基金
難波郁江 武井多佳子 三坂まさ子
名古屋YWCA子どもプログラム
リーダー会ちやんす 長尾真理子
松田和子 安江惠津 江崎啓子
江副史子 島田亮子 新潟YWCA
長崎YWCA 横浜YWCA 大阪YWCA 東京YWCA
一般寄付 江尻美穂子 難波郁江
唐崎和代 福島YWCA 平塚YWCA

YWCA 9条カードキャンペーン

★参院選選挙前に地元の国会議員へ送ろう!

★9条 キャッチコピー募集
(詳細は2面に掲載)

中央委員会報告 3面

寄附行為変更案承認、他

参院選はとっても大切。平和憲法を選びとるチャンスにしよう!

横山由美子

日本YWCAは戦後、核兵器と原子力発電が基本的には同じ仕組みであることを、それを生み出した現代文明の質を問う言葉として「核」と一語で言い表し、反対の立場(「核」否定)を取ってきた。というのもそのどちらが人体と環境へ大きなリスクをもたらさ、かつ強力な中央集権的管理を必要とするものであり、平和憲法の掲げる平和主義と民主主義にはなじまないものだったからである。しかしその長年の取り組みにも関わらず、日本YWCAが世界総会に先立って世界YWCAに提出した「世界Yで「核」拡散を止める運動に取り組み」ことを求めた総会決議案は、取り上げられなかった。「核」の非人道的性、すなわち、ウラン採掘からウラン抽出、核兵器や核燃料製造・運搬、その使用と使用後の廃棄物に至るまで一つひとつの過程からヒバクシャが生まれずにはいないこと、そしてその影響が不可視でありながら長大で、遺伝子レベルさえも傷つけること、そうしたことが日本のYWCAから世界のYWCAにしっかりと発信できているようになった。今月アフリカ・ケニアで開かれる世界総会で、日本YWCAは非核をテーマにワークショップを行う。世界YWCA運動の新たな一歩となればと願っている。

常任委員・東京YWCA会員 西文字

あたり、今後大量の被ばくした原発廃棄物が出る予定であり、その放射能レベルが「問題ない」とされて、一般の鉄材等と混ざられ、建材からさまざまな生活用品に至るまで「再利用」される事態となっている。もしこうしたフライパンや身近な机などから、日々放射能を被ばくする可能性すら出てきているのだ。しかしこのことも、まだまだあまり知られていない。

私自身は数年前に出産を経験して、被ばくの恐ろしさ・悲しみを、以前よりリアルに想像するようになった。人に喜びをもたらすはずの命が、放射能汚染によって、生まれる前から大きな危険に曝されるのだ。

今までの私は、新聞をテレビ欄から読み始め、政治経済に疎かった。さて今も疎いのは変わらないが、YWCAで情報を得るにつけ無関心ではいられなくなった。それは国会や県・市議会が決められたことが私たちの生活に直接あるいは深くかわると実感したからである。

例えば、昨年、教育基本法の改訂が進行決定されたこと、公の利益を優先する雰囲気が増え、一人ひとりが大切にされるゆとり教育は押しやられた。新潟でも、中高・高校増加や公立高校普通科の全県1学区制により学校の序列化が心配される。

国会情勢は今までなく拙速さを増し、平和憲法を改悪して戦争ができる国になるために多くの布石がなされている。安倍首相は「前後レジームからの脱却」と称し任期中の憲法「改正」を公言している。自民党結成以来の党是であり、与党議員数が多い今がチャンスであろう。国民投票法は成立し、教育3法案も衆議院を通過した。政府は国民の声でなく米国のリーダーの声を聴く。今、日本の民主主義は危機に瀕している。

国民投票法が成立したので、最遅で3年後(2010年夏)に国民投票という事態が予測される。「憲法の改正は、各議院の総議員の3分の2以上の賛成で発議し、国民投票において過半数の賛成を必要とする」(憲法96条)つまり、この7月の参院選で選ばれる議員が憲法「改正」の発議を決める可能性が高いのである。私たちが投票する1票が平和憲法を手放すか、それとも生かそうとするのかを決める。私たちが市民が主権者である。より多くの人々に伝えて(各カードキャンペーンなど)、平和憲法を選びとる市民のチャンスとしたい。(日本YWCA常任委員)

夏のバザール
【日時】
7月19日(木)午後5時~8時
7月20日(金)
午前10時半~午後4時
【場所】 日本YWCA会館
【出店】 ブランド婦人服 真珠
アクセサリー 手作りキーホルダー
*バザール収益の一部は日本YWCAの活動費に当てられます。ぜひご来場下さい。

